

伯耆町総合教育会議 会議録(この会議録は発言を要約したものである。)

召集年月日	令和6年10月30日(火)		
召集場所	伯耆町役場 本庁舎 応接室		
開会時間	午後4時00分		
出席者	町長：森安保 副町長：岡本健司 教育長：箕浦昭彦 教育委員：大木寿之、羽田成夫、濱田真代、藤原美枝		
事務局等出席職員	総務課：若林課長、川端室長 教育委員会事務局：本庄次長、岡参事、 乗本参事	会議録作成 職員	総務課室長 川端泰子
提出議案等	1 開会 2 議題 (1) 各種学力調査結果の状況について【資料1】 (2) 教育DXの推進について【資料2】 3 その他 4 閉会		
閉会時間	午後4時50分		

会議の顛末

若林課長	<p>【開会】 伯耆町総合教育会議を開会します。 議題(1)について、教育委員会から説明をお願いします。</p>
岡参事	<p>【議題(1)説明】 「各種学力調査結果の状況」について、資料に基づき説明。</p>
岡参事	<ul style="list-style-type: none"> 資料の1をご覧ください。 保育所から中学校3年生までの教育行政をまとめたものがこの図となっています。小学校6年生は全国平均とほぼ同じ状況になっていますが、小学校から中学校に上がるまでの間に伸びが見られまして、中学校3年生は全国と比べて非常に高いスコアになっています。 右側は4月の定点観測で現中学校3年生の小学校2年生から中学校3年生までの学力調査の推移の折れ線グラフとなります。近年、小学校4年生ぐらいで低迷するような傾向が見られますが、中学校でぐんと伸びている形

	<p>が読み取れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 ページは、全国を 100 とした場合の点数となっています。文字の赤い数値が本町の学力ということで、全国 100 とした時に、100 を超えている教科が非常に多くあります。 ・2 ページ右側の棒グラフについてですが、小学校 6 年生と中学校 2 年生がやや低い状態で、ここを各学校で重点的に取り組んでいただいているところでは。 ・学年別で比較した際にも、概ね例年、全国・鳥取県よりも高いスコアになっています。 ・簡単ですが学力については以上です。
若林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員さんの方からも何か。ないようでしたら先ほどの結果を受け、町長さんありますでしょうか？
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> ・個々については、程度の差はあるが、全体として傾向が良いと確認できました。 ・中学校 3 年で、受験という大事なターニングポイントがあるので、そこを重点として学校の先生がどれくらいの基準をもっておられるのかということに尽きると思います。 ・中学校の義務教育が終わる段階で、その子供さんにとって、何とかいい状態までできたということであれば、それで良いのではないかと思います。
羽田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問では、各学校の先生方たちの授業や学校の雰囲気を見させていただいています。非常に落ち着いた中で確実に授業をしておられるなという姿がよく見られます。 ・今の中学校は先生方がしっかり教材研究をして、きちんと子供たちに向き合っておられる。岸本中学校、溝口中学校両校とも良い方向が出ていると感じています。 ・先生方が頑張っておられるなと思います。
大本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど、岡先生が言われた小学校 6 年生と中学校 2 年生の低いところが心配だと。おそらく、小学校 6 年生は中学校 1 年でぐんと伸びるのではないかと思います。ですので、学校全体として力を入れてもらいたいところでは。 ・それから、これはこの表には一切出ないんですが、今は 2 極化が進んでいて、できる子とできない子の差が非常に大きくなってきている。これは社会全体がそうなのですが、そこの底上げもしていかないといけないと思います。
岡参事	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の質問紙調査について、補足説明します。 ・まず、生活の状況ですが、本町の傾向として、規則正しい生活習慣となっているということが読み取れました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つ目に、学級の仲間と話し合い活動が活発で、先生方も非常に子供たちをよく導いて、話し合い活動の中で集団学びを展開しているということが明らかになっています。全国と比べても高い数値が出ています。 ・ 次ページ上段ですが、主体的に協同的に授業に取り組んでいるかというところですが、全国と比べて高い結果が出ました。課題として、キャリア教育により夢と日々の学びをつなぐというところで、家庭学習がなかなか進んでいないという傾向が出ています。こういったところでも自立できるように各学校が促しているところです。
濱田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど、大木さんが二極化というお話をされたんですが、今、教育委員会の方で、伯耆未来塾といって、土曜日の昼間から自主勉強する場を設けています。 ・ 勉強が得意な子だけではなく、どちらかという苦手な家で一人で勉強できないような子が、2時間きっちり勉強する場を確保できています。 ・ その中で、安心して質問ができ、苦手なところも前向きに進んでいけるという気持ちを持っているようです。 ・ こういった取り組みが二極化を少しでも縮めることにつながっていけばいいなという思いで進めています。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は小学校5年生と中学校1年生と今年中学校を卒業して高校に進学した子供がいますが、この調査の結果をみると伯耆町が全国と比べて高いというのは、一保護者としてもうれしく思います。 ・ 今の時代、子供たちが忙しいんです。子供たちが家に帰って勉強をしている姿を見たり、教育委員として学校訪問で行かせてもらうんですが、私たちの時代でもやっていたことをやりつつ、それに加えて新しい学びとか学び方をやらなくてははいけない。 ・ 二極化という言葉が出ましたが、忙しくしている中で家に帰って「9時に寝ましょう」とか、本当に寝られているのかなど。この結果は本当なんだろうかという気持ちもあります。全国の動きに遅れないようにという伯耆町の考え方も大切だとは思いますが、伯耆町はどんな子供を育てていきたいのかということも検討しながら進めていかななくてはならないと日々感じています。
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な価値観がある中で、最終的には大人になって自分の力で生きていくということになるので、それに資する成長を学力も含めて話していくことが一番大事。 ・ 地方は学校教育が中心なので、学力が遅れないような形でフォローするためのサポート、仕組というのをやはり維持しておく必要があると思います。 ・ 本当はICTの利用などが定着してくるともっとよいとは思いますが、引き続き研究ということでよいと思います。

若林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・追加の意見等がありますでしょうか？ ・ICTの話も出ましたので、次の議題に移ります。 ・教育DXの推進について、教育委員会から説明をお願いします。
本庄次長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2 教育DXの推進ということで、現状と今後について、令和8年度にタブレットの更新時期も来ますので、そのようなお話をさせていただきます。 ・取組の現状ということで、まずは今年度来年度の目標として、令和6年12月または令和7年4月の標準学力調査をCBT化することです。 ・背景としまして、令和7年度からCBT化、コンピューターによるテストが始まるということが全国的に動いています。 ・これまで紙で行っていた学力調査をChromebookを使って行う方向で、令和7年度に理科だけはコンピューターであることが決まっていますので、それに先駆けて伯耆町の方では進めています。 ・教師による当面の間の課題ということですが、今もChromebookを配置していただいていますので、それを使ってなるべく授業に取り入れていこうということで声掛けをしています。 ・資料の5ページ別紙1になりますが、年度当初にChromebookの学年別活用リストを作りまして、学校共通で各学年ごとにどういったことをできるように授業に取り入れていくか、それぞれ目標を設定する形で確認しながら1年間授業を進めていくようにしています。 ・今後、タイピングスキルが必要になってきますので、求められるタイピングスキルを明確にして、各学校で取り組んでいます。 ・児童生徒による日常的な推進ということで、町の予算でタブドリライブというソフトを入れています。これを使ってChromebookを利用した学習に慣れていくような取り組みを行っています。 ・標準学力調査のCBT化後は、調査結果に応じた最適問題が出題されますので今後も活用していきたいと考えてます。 ・各家庭環境における通信状況については、毎年年度初めに各家庭にWi-Fi機能があるかどうかを確認してまして、今のところは通信環境は整っているという風に考えています。 ・標準学力調査のCBT化ということで、コンピューターによるテスト化というのを伯耆町では今年の12月の標準学級調査から実施するというように進めています。 ・生徒が慣れていないところもありますので、早めに進めていく必要があります。 ・また、効果については、タブドリライブ等で最適な問題が出るということと、結果の返却が早くなることから、授業等へのフィードバックが早くなるということです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実についてですが、今後の課題の解決ということで、Chromebook の更新の時に必要になってくるとは思いますが、鉛筆を使ってタブレットにかけるような機種や、タッチペンとして活用できるような機種を選定できればよいと考えています。 ・ICT 環境整備ということで Chromebook の配置台数について載せています。現在 950 台前後の台数を配置しています。ただ、少しずつバッテリーの劣化が始まってきて、キーボードがきかなくなるような症状が出ていますので、購入等で補填しながら令和 8 年度の更新に向かえるよう考えています。 ・GIGA スクール構想第 2 期における 1 人 1 台端末の更新ということですが、こちらについては令和 8 年度に Chromebook の更新を計画しています。 ・14 ページに、各自治体の更新予定台数の方をあげています。調達スケジュールとしては、令和 8 年度に整備する市町村については、令和 7 年の 4 月ぐらいから調達手続きの検討を始めていくということになります。 ・オンラインホワイトボードツールについてですが、これまで使っていたツールに代わるものを、引き続き利用していきます。 ・タイピング指導ですが、タイピングの能力に差が出ないように、基本的な部分は学校で教えて、あとは隙間時間にツールを使用して習得できるよう進めています。 ・説明は以上です。
若林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場をよく知っておられる岡参事、乗本参事何か補足で、学校の状況などがあればお願いします。
岡参事	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前と比べたら、授業 ICT の推進は非常にはかどっていますし、教科書のデジタルコンテンツが非常に増えていまして、そういったものを活用していくことがポイントとなっています。 ・課題で上げさせていただいた特別支援教育には思いがありまして、ローマ字が極端に苦手な場合は同じ試験をするのに入力スピードが非常に遅かったりして、同じ土俵に登れないということがあります。学力をはかるのに不公平がないような状態を作って、そこで初めて一律導入が可能になるという立場で頑張ってきました。 ・そういったことから、次長も申し上げましたが、手書き入力に非常に優れたタブレットが今登場していますので、そういったものを要望していきたいというところです。

乗本参事	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、私が現場にいたときにタブレットドリルという物を使っていたんですが、今のタブドリライブになってかなり能力に応じた問題に取り組めるというふうに思います。 ・多くの学校が家に持ち帰って活用するようになってきたと感じていまして、土日に持って帰らせて家庭学習にプラスするという場合もあれば土日ではなく平日毎日持ち帰らせたりと学校によって工夫をされています。 ・ゲーム性のある内容でポイントが貯まったりとか、そういった機能もあるので教育支援センターでの利用もかなり充実していて、全然勉強に向かえなかった子がタブドリライブになってから自分で聞いて勉強するという現状もあります。 ・先日の通学合宿の際にも、タブレットを持って帰って勉強している学校も多かったですし、中には次の日の予定などをタブレットを使って連絡している学校もあって、日常的に使うようになってきたというのは感じています。
若林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員さんから何かありますでしょうか
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほども話がありましたが、英語の勉強、アルファベットの勉強が小学校1年生、小学校3年生からはローマ字の勉強をしていくようになっていて、非常に大変だなと思っています。 ・今は小学校低学年にすらCBTテスト化させるということで、それをやっていけないといけない。児童生徒さんたちは大変だなと思います。 ・しかし、これからどんどんこのように進んでいくということですので、学校側としてもどうやって対応するのかということを考えていかななくてはならないなと思っています。 ・保護者の方々の学校への連絡も、今はGoogleでということになっていたり、世の中は進んだなと感じています。
羽田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに対するこのブックの活用についての目安というのが低学年から6年生まであるんですが、指導する先生の研修というのがやはり大事で、上手に使いこなす、それが授業をするうえで負担感にならないぐらいに研修が必要かなと思います。
濱田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの反応はそんなに拒否みたいな感じではないという気がしています。 ・学校訪問で二部小学校に行きましたが、授業が終わってからの時間に、自分たちでタブレットを出してきて、楽しそうにドリルに向かっている姿がありました。それなりに苦労もあるかもしれないんですが、前向きな様子うかがえたので、私たちが心配するよりも子供たちの慣れは早いのかなと期待します。 ・これからCBTテストということになるといろいろなハードルもあるとは思

	<p>ますが、うまく乗り越えていってほしいと。世界的にもそういうのが当たり前になっていきますし、TOEIC のテストとかもパソコンやネットを通じてするような世界になっていきます。これからの子供の将来のためにきっと生きていく力になるのではないかと思いますので、応援をしていきたいなというふうに感じているところです。</p>
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど濱田委員が言われたように、これはなくてはならない世の中になってきているので、今はとにかく楽しく親しんでくれればいいのではないかと思います。 ・こういう時代を生きている若い先生がこれからどんどん先生になっていくだろうし、児童生徒たちが楽しくこの義務教育の時期に慣れ親しんで、高等学校 大人に近づいていってくれたらいいなと思います。
岡本副町長	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングっていうのを小さいころからするというのは私たちの世代からは考えられないと感じているのですが、ドリルなんかペンで書くんですけど、本当に漢字を覚えられるのかなっていうような気がして。ちょっと心配です。
箕浦教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、基礎基本である、鉛筆をもって漢字を書くとかそういったことはきちんと身につけさせないといけません。
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> ・開始導入時点では不安感もあって、本当に教育ツールとして使えるのかという話と、あとは家庭への持ち帰りで本来的な教育目的と外れた使用が起こるのではないかというような話もありましたが、それは杞憂だったということが今も証明されています。 ・子供たちにとって教育的効果が出やすく、教える側の先生の能力を補完できるような、子供たちが自主的に取り組むツールとして使うことで、先生の指導を補うことができるようになるということがポイントになるでしょう。 ・ハードの能力も含め、更新の際に検討が必要だと思います。
若林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会からの議題は以上になります。 ・皆さんの方から何かありますでしょうか。 ・ないようですので、以上で総合教育会議を終了させていただきたいと思います。 ・ありがとうございました。